

要点  
6

# シロアリ・衛生害虫の駆除時には安全施工の確認を

解説

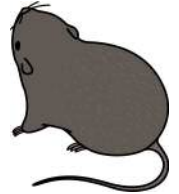
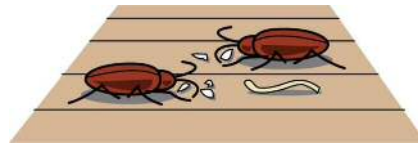


## ■信頼できる業者の選定を

シックハウス対策で注意するのは新築・改築のときだけではありません。シロアリやねずみ、ゴキブリ、ダニ、ハエの駆除を行うときには様々な化学薬品を使用しますので、業者に駆除などを依頼するときにも注意が必要です。

駆除・防除の方法を明らかにしている業者やIPMの考え方を取り入れている業者を選ぶと良いでしょう。

複数の業者にあたって、比較してみるのも有効な手段です。



## ■シロアリやダニなどの衛生害虫の駆除時には、安全施工の確認を

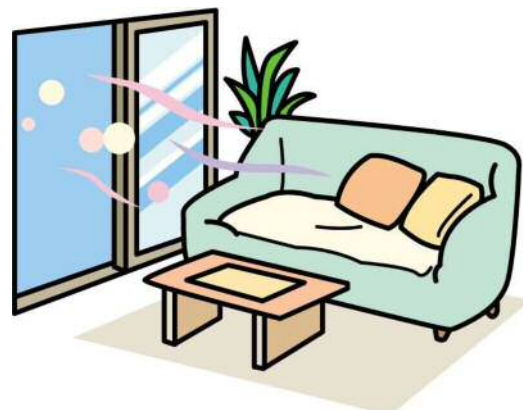
駆除・防除の作業の前に、使用する薬剤、施工方法などについて業者と打ち合わせを十分に行い検討しましょう。

仕様書をよく調べ、施工場所や薬剤の使用量などの作業内容に問題がないことを確認しましょう。



## ■シロアリ・衛生害虫の駆除施工後には、十分な換気を

できるだけ窓を開放しましょう。  
換気扇を有効に使いましょう。



## 専門家への相談は

次の団体にご相談ください。

- 公益社団法人愛知県ペストコントロール協会  
名古屋市中村区亀島2-1-1 清正公街2階  
電話 052-452-7122  
URL <http://www.aichipco.or.jp/>
- 一般社団法人中部地区しろあり対策協会  
名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル (一財)愛知県建築住宅センター内  
電話 052-242-0511  
URL <http://www.j-shiroari.jp/>

## 安全施工のために

業者との打合せで、駆除作業後に起こる可能性のある健康上の被害や作業後の注意事項を確認しておく必要があります。

健康上の被害を防ぐため、あるいは被害を最小限にするために、どのような対策が取られているか確認しておきましょう。適切な薬剤を選択し、薬剤の使用を必要最小量にすることが特に重要です。

また、効果がどれだけの期間持続するか、効果の程度と範囲はどこまでか、何年か後に作業を繰り返す必要があるかなどを知っておく必要があります。

## コラム

### IPM (Integrated Pest Management 総合的有害生物管理) とは

ねずみ、昆虫の防除とは往々にして「殺そ剤、殺虫剤を散布すること」と誤解され、衛生害虫が見られなくても定期的に殺虫剤を使用するなど、一部で、殺そ剤、殺虫剤が必要以上に使用されている実態が見られていました。

このことが人に対する危害(シックビル)の発生や環境汚染に繋がるため、近年、薬剤をむやみに使用することへの批判が強まり、生息状況調査を重視した環境にやさしい IPM (総合的有害生物管理) という考え方が注目されています。

IPM とは、建築物において考えられる有効・適切な技術を組み合わせて利用しながら、人の健康に対するリスクと環境への負荷を最小限にとどめるような方法で、環境基準を目標に有害生物を制御し、そのレベルを維持する有害生物の管理対策をいいます。

もともとは農業における病虫害防除の概念として発展してきたものですが、室内空気汚染が社会問題化する中で、室内におけるねずみ、衛生害虫の防除においてもこの考え方が取り入れられました。